



友好交流を深めました

瀬戸内牛窓国際交流フェスタ

11月3・4日、牛窓町牛窓で瀬戸内牛窓国際交流フェスタが開催されました。3日には、小学生によるサムルノリ（韓国伝統楽器の演奏）やプチェチュム（扇の舞）、糸あやつり人形劇「朝鮮通信使物語」、手作りの土笛演奏などが披露されました。4日には、牛窓が江戸時代に朝鮮王朝から徳川幕府へ派遣された朝鮮通信使の寄港地だったことにちなんだ朝鮮通信使行列が行われ、華やかな衣装に身を包んだ市民や大韓民国の密陽市から訪れた高校生8人などを含む約140人が、牛窓町公民館を出発し、朝鮮通信使の接待所となっていた本蓮寺までの約2キロを行進しました。



牛窓西小学校児童によるプチェチュム（左下）／本蓮寺に向かう朝鮮通信使行列（右上）

特別展示やろくる実演など

寒風陶芸まつり



特別展「海をわたる風」(左上)／作家によるろくる実演(右下)

11月3・4日、寒風陶芸会館などを会場に、寒風陶芸まつりが開催されました。

特別展「海をわたる風」では、寒風陶芸の里の作家15人の焼き物に西大寺華道部文化連盟（八流派）が花を生けた作品が並びました。

3日の土笛・オカリーナ演奏会では、子どもたちが自分で作った土笛でアニメの主題歌などを演奏したほか、土笛作りの指導をしたオカリーナ奏者軽部りつこ氏による演奏も行われ、来場者は自然の中で聴く優しい音色に耳を傾けていました。

また、作家によるろくる実演や、陶芸体験なども行われ、大勢の人でにぎわいました。

力作・名演がめじる押し

瀬戸内市文化祭



①見事な枝ぶりの山野草などが並んだ（牛窓会場）／②宇喜多秀家が流刑となった八丈島（東京）に瀬戸内市から老夫婦が訪れた場面から始まり、秀家の一生やエピソードを紹介した創作劇「宇喜多秀家ものがたり」（邑久会場）／③子どもたちに人気があった絵手紙製作体験（邑久会場）／④700鉢を超える出品があった備前長船菊花展（長船会場）／⑤ユーモラスな表情と軽妙な動作が観客を引き付けたどじょうすくい（長船会場）

瀬戸内市文化祭が開催されました。会場と開催日程を3つに分けて、10月13・14日には邑久会場（中央公民館）で、10月20・21日には牛窓会場（牛窓町公民館）で、11月10・11日には長船会場（長船町公民館）で行われました。

それぞれの会場のロビーや講座室には、公民館グループ会員による写真・絵画・手芸などの作品が所狭しと並べられ、来場者の目を楽しませていました。

またステージ発表では、踊りや演奏などのグループが日頃の練習の成果を披露しました。

整備された自転車に乗ろう

市内3中学校生徒の自転車を点検

10月18日、財団法人自転車産業振興協会、日本自転車軽自動車商協同組合連合会、自転車商協同組合が共同で、牛窓中学校生徒の自転車約130台のブレーキ、ベル、反射材などに不備がないか点検を行いました。整備不良の自転車には「自転車整備カード」の札を取り付け、早期整備を働きかけました。この事業は毎年市内の3中学校へ向う実施しており、点検を行った小西智之さんは「整備不良の自転車で走行していると交通事故に遭いやすいので、まずは整備された自転車に乗ってほしい。そして毎日交通ルールを守り安全に通学をしてほしい」と話していました。



1台ずつ整備状況を点検

認知症について知識と理解を深めました

瀬戸内市認知症講演会

10月24日、ゆめトピア長船で瀬戸内市認知症講演会を開催しました。愛育委員、民生委員などの市民ら約300人が参加し、認知症について知識と理解を深めました。講演の前に行った寸劇では、市内の社会福祉法人の職員などで構成する瀬戸内市認知症キャラバンメイトが、認知症になった高齢者とその家族の一こまをユーモアたっぷりに演じました。講演では、講師の中島誠氏（岡山赤十字病院医師）が「脳も臓器のひとつ。認知症は脳の病気であって、特殊なものではない。認知症になっても安心して生活することができる社会にしていく必要がある」と述べました。



寸劇「大変！お婆ちゃんが認知症になっちゃった！」(左下)／講師の中島誠氏(右上)